

# ノーリフティングケアの取り組み 劇的ビフォーアフター

～介助者にも利用者にも優しいケアを目指して～  
腰痛率の高い施設からの脱却



特別養護老人ホームことぶきの森

## 取り組み前のことぶきの森の状況

同法人内のしょうがい者支援施設にて、移乗リフトを導入。ことぶきの森として、2年前に床走行式リフトを1台導入。ケアの中で抱え上げに関しては、男性中心にケアを行っており男性に負担の比重が増えていた。そのようなケアを行っていく中で……

### 職員

抱え上げの介助が当たり前  
福祉用具の使用はめんどくさい、時間が  
かかるとの考え  
男性職員を探すのに時間を要し、業務効率↓

### 福祉用具環境

リフトはどうしても介助が困難な方1名に限定して使用  
介助グローブは数枚あり、使い方が曖昧ではあるが使用していた  
福祉用具の管理収納も定着しておらず管理が出来ていない状態

職員の抱え上げに対しての姿勢や、福祉用具の管理等、ノーリフティングケアを**取り組む体制**がとれていなかった

## 取り組み当初の問題点と課題

### 問題点

#### 介助方法・職員の意識

- 抱え上げ移乗が**当たり前**だった
- 職員はノーリフティングという言葉すら**知らなかった**

#### 福祉用具及び介助する環境

- 福祉用具の管理が出来ておらず置き場が定まっていなかった(効率が悪かった)
- 福祉用具の情報がなかった
- リフトが1台しかなかったため、使用したいときに使えなかった
- 食事介助用の椅子が大きすぎ動かないと介助しにくかった

#### 腰痛状況

- 腰痛状況が把握できていなかった
- 男性＝力仕事の認識で重度な抱え上げ介助の偏りがあった

### 課題

教育体制の必要性

ケア方法の統一の必要性

福祉用具導入・管理の体制の必要性

腰痛管理体制の必要性

体制づくりの重要性を感じ、福岡県ノーリフティング推進事業に参加！

まずは、**0ベース**の知識からノーリフティングとは何なのか？  
どのような取り組みか？からのスタート

- 腰痛予防対策委員会の立ち上げ
- 腰痛調査アンケート実施

アンケートの結果は

・**職員28名中24名腰が痛い**

このままではいけない

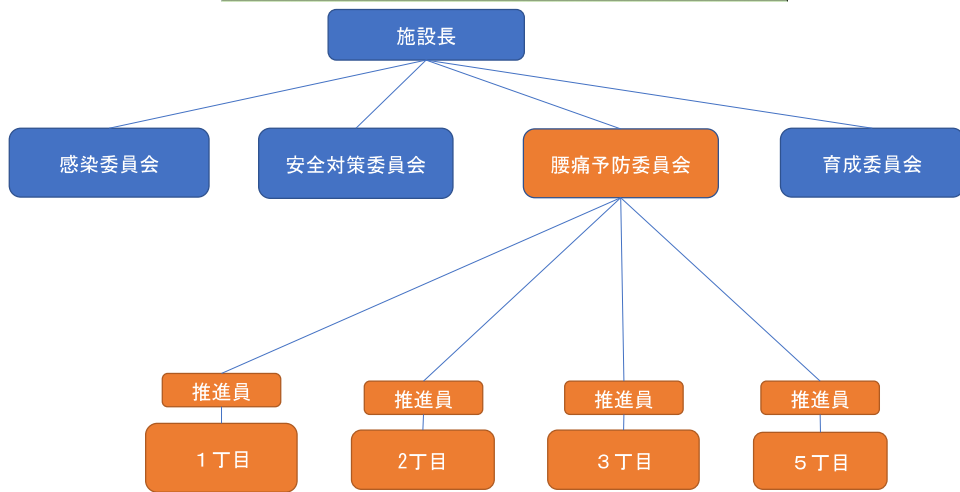
改めて委員会を中心に当施設の目的を再認識



### 【取り組みの目的】

介護される側・する側双方において安全で安心なケアを提供できる現場を目指す

# ことぶきの森 組織図



5

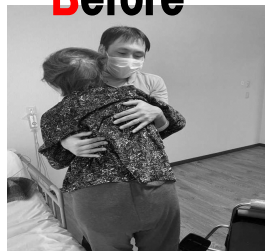
教育リーダーとアセスメントプランニングリーダーを中心に

## 抱え上げの低減(入居者29名中)

抱え上げ対象が抱え上げが当たり前だった

- ・1名対応者 16名
- ・2名対応者 5名

Before



### PDCA

- ・ノーリフティング教育教材動画の視聴を全職員を対象に実施
- ・理解度チェック実施(説明前)
- ・理解度チェック実施(説明後)
- ・理解度チェックの評価再実施
- ・ユニット単位での会議開催  
職員周知

意識を変えることで抱え上げが減少  
アセスメントを見直し、ケアの方法を統一

- ・1名対応者 16名  
(跳ね上げ車椅子等検討中)
- ・リフト対応者 5名 → 内3名はフレックスボードへ移行予定

After



福祉用具管理リーダーを中心に

## その1 福祉用具保管場所の変更、ケア環境の見直し

乱雑に置かれ取り出すのに時間がかかっていた  
→非効率だった

Before



PDCA

- ・介護職員室管理からユニット中心部に管理を移動
- ・管理ボックスを設置する管理表を作成しチェック
- ・入りやすく使用しやすい環境

置き場を決めて整理することですぐに取り出せるようになった  
→効率性が向上した

After



7

福祉用具管理リーダーを中心に

## その2 福祉用具保管場所の変更、ケア環境の見直し

例えば食事介助時で…  
椅子が大きく動かないため職員が**体幹を捻る動作**が生まれていた

Before



PDCA

- ・リスクの抽出にて、食事介助時の椅子が使用しづらい・介助しづらいと職員の声
- 抽出後、会議を実施
- 椅子の購入を検討
- 会議で使用していない椅子を利用
- シミュレーションにて使用
- 結果良好にて変更行う

小さなことからコツコツと～  
椅子を替えるだけで食事介助の負担が減った

After



8

### その3 職員個人の健康に対して意識向上の促し

## Before

タイムカードを押し そのまま利用者のケアに当たっていた

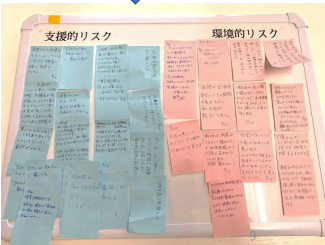
腰痛リスクを意識していなかった

## After

職員通用口に  
掲示物

・朝礼時全員で体操  
・ラジオ体操を増やす

リスク抽出を行い改善  
策を検討中



## 取り組み後の変化

### Before

#### 介助方法・職員の意識

- ・抱え上げ移乗が当たり前だった
- ・職員はノーリフティングという言葉すら知らなかった

#### 福祉用具及び介助する環境

- ・福祉用具の管理が出来ておらず置き場が定まっていなかった(効率が悪かった)
- ・福祉用具の情報がなかった
- ・リフトが1台しかなかったため、使用したいときに使えなかった
- ・食事介助用の椅子が大きすぎ動かないと介助しにくかった

#### 腰痛状況

- ・腰痛状況が把握できていなかった
- ・男性＝力仕事の認識で重度な抱え上げ介助の偏りがあった

### After

福祉用具のデモを重ね教育を行う事で福祉用具の重要性の理解とリフトの使用率のアップ

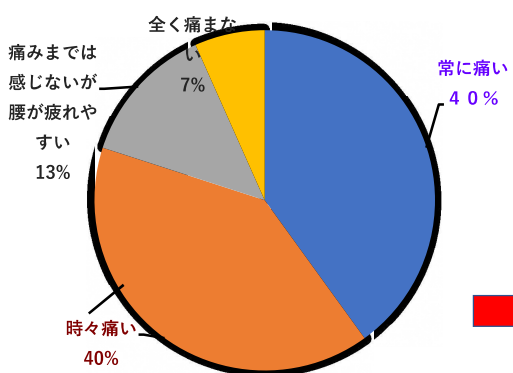
ケア場面でリスクの抽出をはかり改善していく上で腰痛予防への意識の向上、ケアの負担の軽減

腰痛についての理解

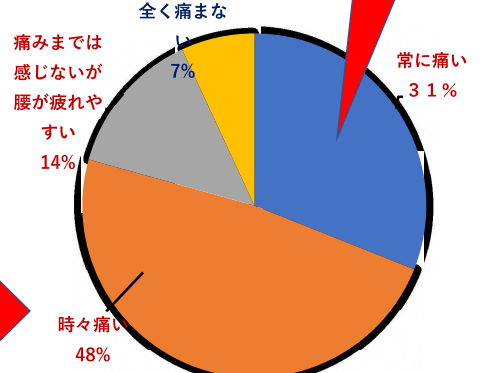
ノーリフティングケア体制の確立

## 腰痛アンケートの比較

### 取り組み前



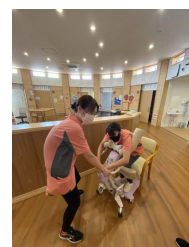
### 取り組み後



## ～最終的なことぶきの森の目標として～



介護される側・する側双方において安全で安心なケアを提供できる現場を目指す



令和3年度の達成目標  
ノーリフティングケアが当たり前のケアとして浸透し定着させる

- 課題
- ・技術面の習得(全職員)
  - ・必要機器(物品)の整備
  - ・機器、物品の使いこなし
  - ・アセスメントの見直し

- 今年度の成果
- ・抱え上げの削減
  - ・福祉用具管理
  - ・ケア環境の見直し
  - ・職員自身の健康に対して意識の向上

ゼロベースからのスタート

